

末期の食道がん患者が食物のみ込みめるようにすると同時に、患部を温めることでがんの進行を抑えるという人工食道を、東北大加

齢医学研究所の山家智之教授（人工臓器学）などのグループが24日までに開発した。

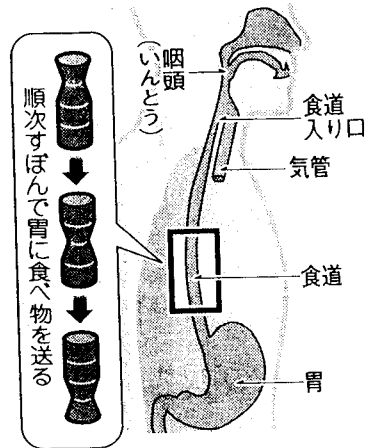
温熱療法付加 がん進行抑制

食談会で県内各地の伝統食を味わう参加者―秋田市のホテル



日秋田市の秋田ヒューホテルで開かれ、各地の伝統食などを味わうランチ食談会が行われた。県、県農山漁村生活研究グループ協議会、県ごらん食推進会議、あきた食品振興プラザの主催。約八百人が参加した。シンポジウムでは、食

開発した人工食道の仕組み



のみ込み機能持つ

人工食道

これまでの人工食道は、がんで食道がふさがらないように患部の内側に金属製パイプ（ステン

東北大教授ら

内視鏡使い、手術不要

内側を高分子ゲルで覆い、食べ物の通りを良くし、電氣を使った温熱療法の機能も付加、がんの進展を抑制することも可能という。同グループは、ヤギを使った実験に成功。耐久性を調べ、ヒトへの臨床応用を目指している。山家教授は「食道だけでなく、胆管や胆道、尿管などさまざまな臓器への応用が期待できる」と話している。

作業体験などとして年産三十万八億円を誇る三重県の農業法人や、ビニールハウスの結婚式場を備えた福岡県の農家レストランなど地産地消の事例を紹介した。金丸さんは「地産地消はまちづくり。地域の良さを再発見し、なぜこの

本年度の「災害ボランティアコーデイネーター養成研修会」が二十四日、秋田市の県社会福祉会館で始まった。各社会福祉協議会やボランティア団体などから約二十人が参加。四日間の日程で、地震や洪水などの被災者支援ボランティア活動を円滑に進めるためのノウハウを学ぶ。

被災者支援

養成
研修会
20人、ノ

点字ディスプレイ

基本技術を開発

東大教授ら発表

シート状
厚さ1ミリ

電子バ

厚さ約1ミリ
シート状点字
の基本技術

